



歴史講座バスツアー

令和7年11月30日(日)

野中兼山にまつわる史跡等を巡りながら
郷土の歴史にふれてみませんか。

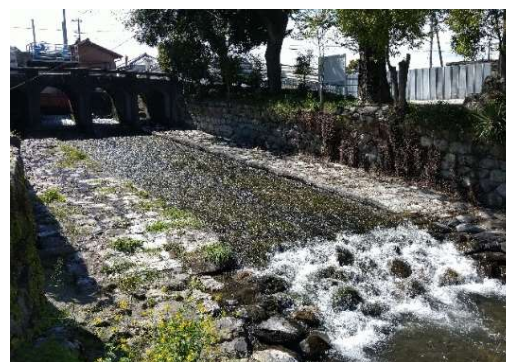


西部発着コース ～タイムテーブル～

8:00	●	四万十市役所 出発
8:20	●	黒潮町役場
9:05	●	四万十町役場東庁舎駐車場
9:35	●	中土佐町こどもセンター前
10:00	●	須崎市役所
10:25	●	つな一で第4駐車場
10:35	●	いの町役場
10:40	●	八田堰見学(車中)【いの町八田】
10:50~11:10	●	見学・歴史講座① 新川の落とし【高知市春野町】
11:20~11:50	●	資料館見学(解説あり)【春野郷土資料館】
12:10~12:50	●	昼食【桂浜】
13:40~14:20	●	見学・歴史講座② 山田堰【香美市】
14:20~	●	アンケート記入／解散 (香美市→いの町→土佐市→須崎市→中土佐町 →四万十町→黒潮町→四万十市)



新川のおとし (高知市) *shinkawanootoshi*



弘岡井筋は農業面の灌漑用水としてだけでなく、交通路としても利用されました。かつて、奥仁淀の村々の木材や薪炭などは仁淀川を下り、仁淀川河口から太平洋に出て、浦戸湾から城下へ運ばれていましたが、八田堰と弘岡井筋建設以降、上流からの物資は井筋を通り、新川川を経て浦戸湾へと入るようになりました。ただし、井筋と新川川には高低差があったため、新川川の入口に高低差を調節するための「おとし」がつけられました。

山田堰 (香美市) *yamadazeki*



土佐山田町小田島から神母ノ木(いげのき)にかけて物部川を横断する水切り堰です。寛永16(1639)年、土佐藩家老の野中兼山は先人の遺した業績をもとに、大量の石材と木材を使って、長さ327メートル、幅11メートル、高さ約1.5メートルの堰を築きました。完成まで26年を要したといわれています。堰は下流の平野を潤し、多くの米収を得て、さらに舟入川の運輸を利用することにより、土佐藩の経済に大きく貢献しました。